

秋学期が終了し、冬休みに入りました。期末テストは講義終了後の約2週間の間行われました。昼夜を問わず図書館には大勢の学生が必死に勉強していて、かなり刺激をもらいました。私は最終日までテストがあったのでしんどい経験をいたしました。今回の報告書では、今期に履修した科目についての感想を報告します。

Mechanical Engineering 340: Dynamics of Mechanical Systems

この授業は1週間にLecture 3時間と2週間に1回2時間のLabから構成されていました。毎週金曜日のクイズと2週間に1回の宿題およびLabの予習・復習はかなりしんどかったです。Labでの先生はLectureの先生と一緒にではありません。大学院生に変わります。学生数は9人、授業内容は、Lectureで学んだことをMATLABと手で計算し、授業内容の理解を図るとともに、MATLABのコマンドの使い方について理解を深めます。本科目で大きく感じた事はアメリカ大学の学びの体勢だと思います。これは宿題を行っている時に感じたことで、宿題には平気で教科書に載っていない部分や、授業で行っていないことが課されます。学生は講義の先生やTAのOffice Hourを有効に活用していたと思います。1週間に3時間の講義では教えることができる範囲に限りがあり、それを宿題やLabの時間で補うような印象を受けました。また、TAの実力にも圧倒されました。上記した通り、TAにもOffice Hourの時間が設置されています。学生は毎週そのきまった時間に指定された教室にいき、自主的に質問をしているような感じがしました。この姿勢には大いに学ぶ点があると思いました。

EALC 250: Introduction to Japanese Culture

この授業は1週間に3時間のLectureで構成されています。この授業は日本の文化についての勉強です。日本の文化がアメリカではどのように教えられているのかという興味と、それなりにわかっているだろう日本の文化を英語で勉強してみたかったというのが、履修した理由です。各講義には宿題として大量の予習が課され、すごいスピードで授業は進行了。試験はエッセイと中間テスト、期末テストでした。本講義を受講して、客観的に日本の事を学べたと思います。

PHYS 140: How Things Work

この授業は1週間に2時間のLecture、1時間(不定期)のDiscover Classで構成されています。これは物理の授業です。LectureはEALCの授業と同様、だいたい300人程度が座ることができる大講堂で行われました。この授業の特徴的な点は、生徒参加型の授業の進行形態です。一回の講義で3~4個の実験が行われ、生徒が参加する時もあれば、先生が一人で解説しながら進められる場合もあります。また、聴講生は"i-clicker"というリモコンを使用し、講義中に出题される簡単な問題に回答します。これは出席確認を兼ねたもので、同時に生徒の理解度を先生が把握できるようになっていました。Discovery Roomsでは、簡単な実験を2~3人のペアーを組んで行いました。試験はすべて選択式で3時間かけて実施されました。

ESL 114: Academic Writing

この授業は1週間に2時間のLectureで構成されています。授業内容は、英語のアカデミックライティングについてです。週に一回のJournal, Essayが不定期に宿題として課され、2週間に一度先生と個人的なミーティングを行い、ライティング能力の強化を図ります。私が履修した授業の中で最も教授と密にコンタクトがとれたクラスでした。授業中には、ディスカッションをよく行い、一方的な講義とは違い、生徒と先生の距離はとて近いに感じました。試験はエッセイが課されましたが、期末試験はありませんでした。

最後に時期に履修予定の一覧を以下に示します.

- ENGL102
- ATMS120
- PHYS211
- ESL115

次回の報告書で履修する科目の詳細について書きます.